平成３１年度　「特色ある学校づくり対策事業」実践事例報告

佐世保市立宇久中学校

所在地　佐世保市宇久町平 2303 番地

校　長　古庄　忍

生徒数　２１名 学級数 ３（R１.5.１）

（実践テーマ）～郷土を愛し、郷土に貢献する心を養う～

○ 実践テーマ設定の理由（目的）

本校生徒は、１島１中学校で、地域住民の方々の温かいご支援を受けて育っている。しかし、高校を卒業するとほとんどの生徒が島外へ進学・就職していく実態がある。

そこで、島を出るまでに生き抜く力をしっかり身につけること、どこに行っても、地域で育まれ、愛されてきたことがバックボーンとなって自信を持って歩んでいくことができること、また、将来においても地域を愛し、地域の発展に貢献することがそれぞれできる人材の育成を目指し、上記のテーマを設定した。

また、今年度から自ら生きるために必要な「健康食育」の項目を立ち上げ、将来、自分の力で、健康に生活できる力を身につけるために取り組んだ。

○ 重点項目および実践内容

上記の目的を達成するために、以下の５点を重点項目として取り組んだ。

１　学力向上	２　環境自然	３　郷土学習
４　進路学習	５　健康食育	

１　学力向上

（１）朝自習テストの完全合格

国・数・英の３教科を学力重点教科とし、朝自習で学習に取り組み、月末に確認テストを実施した。テスト作成と合否の管理は教科担任が行い、テスト監督や採点は学年全職員で協力して取り組んだ。合格できなかった場合には、繰り返し再テストを行い、実力をつけられるよう支援した。

（２）家庭学習

宿題とは別に、毎日２ページの家庭学習を行っている。「家庭学習ｄｅ登山」と題し、家庭学習の量を確保するように取り組んでいる。質については、まだ不十分な部分があるので、今後の検討課題である。

（３）小中高での授業研究

小中高全教員で、それぞれの校種の授業を公開し、授業研究を開催。今年度は小学校で英語科、中学校で国語科、高校での数学科でそれぞれの研究授業を行った。12年間を見据えた学習指導の在り方について、研究を深めるため、指導案の基礎的部分の統一、授業研究会でのワークショップ形式での討議など、様々な方策を通して、児童生徒の学力向上を図った。

（４）校内イングリッシュキャンプの実施

校内イングリッシュキャンプを全校生徒及び小学５・６年生で実施した。講師を６名招聘し、中学校体育館でいろいろな場面を設定して、実際に英語を活用することで、自らの英語力を高めようとするきっかけづくりができた。

２　環境自然

五島列島最北端の宇久島は、大変美しい環境に恵まれていると同時に、少子高齢化という過疎化も深刻化している。美しい地域を守るとともに、宇久島を維持していくために、自分たちにできることは何かを考え活動している。

（１）海岸清掃（６月１４日）

郷土の身近な自然の実態を知ることにより環境保全の心や宇久の自然を愛する心を育てるとともに、小中高が協力して自分ができることを考え、実践する機会とすることを目的に行った。校種を問わない班編成を行い、大浜海岸で実施。地区の方もボランティアでお手伝いをしてくださり、地区と一体となった活動ができた。今年度は好天に恵まれ、海岸がとてもきれいになった。

（２）花植え活動（６月６日、１１月７日）

昨年度から、地区老人会と一緒に町の美化活動を始めた。花苗を道路にある花壇に植える作業を、老人会の方たちに教えていただきながら、共同作業を行った。町を美しくすること、老人会の方と親しくなることで、宇久島を美しく維持していくことについて、考えを深める機会となった。

３　郷土学習

（１）宇久地区無形文化財「なぎなた踊り」（全校生徒）

①「なぎなた踊り」とは

本飯良地区八幡神社に伝わる奉納踊り。さまざまな踊りの様式が入り乱れて伝承されたようで、一部には歌舞伎勧進帳の弁慶・富樫を模し、また、一部には弁慶・牛若丸を模していると言われている。一度途絶えた踊りを発掘したものであるため、長い間に徐々に変容していき、現在に至っている。

踊りは、弁慶・富樫を模した問答の後、緩やかななぎなた踊りに移る。お謡いにあわせて、大太刀（男踊り）、小太刀（女踊り）で踊る。

※統合前の神浦中学校が掘り起こして、現在本校で伝承している。

②本校での取組

目的を下記のとおり設定した。

- 郷土の伝統芸能を体験することにより，地域理解と宇久島のすばらしさを発見し伝統を継承する。
- 「なぎなた踊り」の歴史的背景を学習し，学んだことを表現する。
- 他学年とコミュニケーションを図りながら、協力して踊りを作り上げることの大切さを味わう。

＜実際の取組＞

- 地域との連携

地域の方をゲストティーチャーとしてお招きし、ご指導いただくことで、できるだけ昔の形で残せるように取り組んでいる。

- リーダーの育成

大太刀、小太刀、お謡いとそれぞれ３年生がパートリーダーとなり、リーダーの指示のもと、自分たちで本時の目標を決め、取り組んでいる。

- 地域の方や小学生への披露

例年、地域の方をお招きして、八幡神社での披露を行っている。現在では、神島神社大祭での披露も行うようになり、島全体で披露されている。また、小学５・６年生が披露の際に見学に来てもらえたことで、なぎなた踊りにおいても小中連携が実施されている。

（4）宇久島調べ（1年：11月29日～1月）

宇久島の歴史や文化について、宇久島在住の方に教えていただきながら調査活動を行い、最終的にプレゼンを行う。自分たちが住む宇久島には、どんな歴史があるのかを、実際にフィールドワークをすることで再発見し、後世に残していきたい宇久島の魅力を学習している。

4　進路学習

（1）職場体験学習

今年度は隔年実施の職場体験学習を２・３年生で行った。できるだけたくさんの島内の事業所の方にお願いし、１６名の生徒に対して、１０事業所の協力を得られた。勤労に対する職業学習としての一面だけでなく、地域を知るという意味でも意義が大きい。

（2）キャリア教育講演会

キャリア教育講演会では、助産師の方に来ていただき、助産師という職業についてと「命の講演会」としても生命の大切さについて、しっかりと学ぶことができた。

5　健康食育学習

（1）自分でつくるお弁当の日

小中高一貫教育の共通の取組として、「自分でつくるお弁当の日」を実施した。将来の自分で健康を維持できるようにと、テーマにそったメニューを考え、自分の力で食事をつくる機会を設定している。栄養教諭や養護教諭のもと、調理の技能だけでなく、意識も高まっている。

○ 成果と課題

実践テーマ「郷土を愛し、郷土に貢献する心を養う」のもと、本校生徒は、１年間、５つの重点項目における各プログラムのいずれにも積極的に取り組んだ。その結果、授業では表現力を伸ばすことで少しずつ学力が向上し（学力向上）、地域について自然分野（環境自然）と伝統文化（郷土学習）から学び、いずれ自分にとってどのような形で宇久島とかかわっていくかを考える（進路学習）機会を持つことで生徒それぞれが成長した。また、今後、自分で生きていくために必要な健康と食育の力（健康食育）を育成し、達成感を得ることで「自ら計画を立て、調理できる」人材の育成を目指している。

一方、生徒数減少および島民減少は喫緊の課題であり、これらの取り組みに、大きく影響している。今後はさらに少人数になることも予想されるため、生徒の負担軽減や活動の縮小を並行して検討していかなければならない。「郷土を愛し、郷土に貢献する心を養う」機会を、今後とも提供し、将来、郷土とともに成長し活躍できる人材の育成を進めていきたい。